

講義名	栄養指導論 I
開講学年	2
単位	2

授業の達成目標	1. 栄養教育（指導）の目的と必要性を理解する。 2. 対象者の健康・食物摂取状況のアセスメント方法を理解し、適切な栄養教育マネジメントを展開できる能力を習得する。 3. 食行動の成り立ち、およびその変容の背景を行動科学的観点から理解する。 4. 行動科学理論や技法を活用し、対象者が健全かつ豊かな食生活を営むことができるように支援できる能力を習得する。
授業の概要	対象者に適切で効果的な栄養教育（指導）を行うため、アセスメント方法や栄養教育プログラムの作成方法を学ぶ。 行動科学理論やカウンセリングの理論に基づく支援方法を講義する。
授業形式	講義および事例検討，演習

授業計画表

回	項目	内容	キーワード・備考
1	栄養教育の概念 -1	オリエンテーション 栄養教育の目的・目標	栄養教育とは
2	栄養教育の概念 -2	栄養教育の対象と機会，ライフスタイル改善のための社会的支援	ヘルスプロモーション
3	行動科学理論と 栄養教育-1	行動科学とは 代表的な理論やモデル-1 事例検討と演習	刺激-反応理論 ヘルスビリーフモデル
4	行動科学理論と 栄養教育-2	代表的な理論やモデル-2 事例検討と演習	合理的行動理論と計画的行動理論 社会的認知理論
5	行動科学理論と 栄養教育-3	代表的な理論やモデル-3 代表的な行動変容技法や概念	トランスセオレティカルモデル（行動変容段階モデル）， 刺激統制法，行動置換法， セルフモニタリング， 認知再構成など
6	栄養カウンセリング-1	カウンセリングの基本	共感的理解 無条件の肯定的配慮 純粋さ，傾聴

7	栄養カウンセリング-2	栄養カウンセリングの特徴と基本姿勢 栄養カウンセリングを支える心理学的知見	栄養カウンセリング マイクロ技法
8	栄養カウンセリング-3	栄養カウンセリングの応用 効果的な質問とは 行動変容を促す面接法	効果的な「開かれた質問」 注意したい「閉ざされた質問」 動機づけ面接法
9	栄養カウンセリング-4	栄養カウンセリングの実際 栄養カウンセリングの組み立て	栄養カウンセリングの組み立て（個人，家族，集団）
10	食環境づくりと栄養教育	食環境づくり 組織づくり・地域づくりへの展開	食物へのアクセス 情報へのアクセス 組織・地域づくり
11	栄養教育マネジメントⅠ	栄養マネジメントの枠組み 健康・食物摂取状況のアセスメント	PDCA サイクル、質問紙法 集団・個人面接法
12	栄養教育マネジメントⅡ-1	栄養教育プログラム作成 目標設定の意義と方法 実際の流れ-1	目標の種類とその内容 プログラムの計画（6W1H1B）
13	栄養教育マネジメントⅡ-2	栄養教育プログラム作成 実際の流れ-2 栄養教育プログラムの実施に必要なスキル	教材の選択と作成 学習形態の選択 講義・討議形式
14	栄養教育マネジメントⅢ	栄養教育の評価 目的、評価のデザイン、種類 測定や手法の信頼性と妥当性	実験・準実験・前後比較・ ケーススタディデザイン 企画・経過・影響・結果・経済評価
15	栄養指導論Ⅰのまとめ	単元のポイント（復習）と質疑応答	

事前・事後学習の内容	事前に教科書にて学習内容を確認する。
成績評価の方法	提出物と*授業態度：10％ 学期末試験：90％ *演習の取り組み態度，忘れ物，私語，不必要な携帯電話の使用など、問題のある場合減点とする 評価基準は合計 90 点以上：S、85～89 点：A+、80～84 点：A、75～79 点：B+、70～74 点：B、65～69 点：C+、60～64 点：C、59 点以下：D とし、D は不合格とする。 ただし、出席が 2 / 3 未満の場合は評価をせず不合格とする。
参考書	参考書（食コーチング：医歯薬出版） 適宜、資料，プリントの配布
教材	教科書（栄養教育論：医歯薬出版）